浄土宗の戒名の種類と違い

戒名（かいみょう）は、仏弟子としての名前であり、阿弥陀さまに帰依した証として授けられる大切なものです。戒名の形や内容は、信仰の深さやお寺とのご縁、修行歴などによって変わります。戒を授かった時から亡くなって極楽浄土へ行った後もずっと使われる名前で本来は生前に授かるべきものです

【1】信士（しんじ）・信女（しんにょ）

戒名の中でも最も基本的な位号
宗旨や教義を問わず、形式的に戒名を授かる場合に使われることが多い
仏弟子としてのご縁の第一歩としての位置づけ

例：〇〇〇〇 信士
※信士には誉号・院号はつきません

【2】善士（ぜんじ）・善女（ぜんにょ）

五重相伝を受けた檀信徒が授かる。浄土宗での基本的な位号
お念仏の信仰を持ち、仏弟子として戒名を受けた方に授けられる
信士・信女より一歩進んだ、宗旨に根ざした戒名

例：〇誉〇〇 善士　又は　〇誉〇〇〇〇 善女

【3】禅定門（ぜんじょうもん）・禅定尼（ぜんじょうに）

五重相伝を受けた檀信徒が授かる。念仏の実践が深く、信仰に厚い方
五重相伝を受けた方の中でも生前に深く仏道を歩み護寺活動に励んだ方など
「仏道を修する門を開いた者」という意味が込められる

例：〇誉〇〇 禅定門　又は　〇誉〇〇〇〇 禅定尼

【4】居士（こじ）・大姉（だいし）

檀信徒として特に高い徳を積んだ方
寺院との関わりや地域での功績が認められる方
主に男性に「居士」、女性に「大姉」が使われる

> 例：〇誉 〇〇〇〇 居士・大姉

【5】院号（〇〇院）

特に信仰・社会貢献・寺院支援などに功績のある方
長年にわたるご奉仕や、多大な浄財を寄進された方など
戒名の最上位であり、生前に授与される場合もある
※元々は天皇や貴族・将軍家のような寺院を建立し仏教を多くの方に広めるほどの貢献をした方へ与えられた特別な戒名。院殿号は武家に使われていた
> 例：〇〇院 〇誉 〇〇〇〇 居士・大姉

その他の戒名

【1】斎（さい）

生前に仏門の修行や信仰を持ち、つつましい生活をされた檀信徒に用いられる
例：「妙信斎」「清浄斎」など
> ※「斎」は位号というより、清貧や謹厳を意味する尊称

【2】庵（あん）・室(しつ)

仏道修行に励んだり、深い信仰を持つ在家者に与えられることがある
特に仏道を支えた僧侶の妻や総代の妻などに多く見られる
例：「妙香室」「念仏庵」など
※「庵号」は院号と似た使われ方をするが、格式より信仰・在家性を示す

【3】嬰児（えいじ）

生後すぐに亡くなった乳児につけられる位号
仏弟子として正式な戒名を授けるには至らない年齢での往生に用いる
性別は問わず使用される

【4】孩児（がいじ）

「嬰児」より大きい子どもで「童子」より小さい子ども（幼児～未就学児）に使われる
語感がやや古風で、地域やお寺によって使われる頻度に違いあり

【5】童子（どうじ）・童女（どうにょ）

幼児～中学生くらいの子どもに授けられる位号
「〇〇童子」「〇〇童女」などと名付けられる
成長途中での往生に対する哀悼と仏縁の証し

【6】水子（すいじ・みずこ）

流産・死産・中絶などでこの世に生まれ出る前に命を終えた子に用いられる
一般に戒名は授けず「〇〇家水子諸精霊」として供養されることが多いが、 信仰的に名前や法号を与える場合もある